

# 「空飛ぶ車」開発 安来企業参画

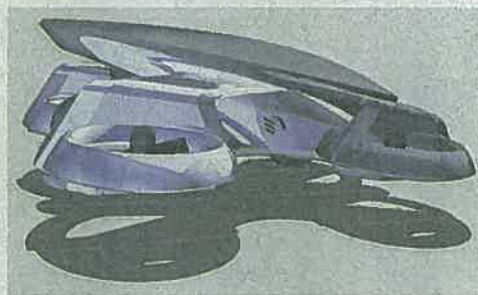


夢の車の開発に思いをはせるキグチテクニクスの木口重樹社長(右)ら―安来市西恵乃島町、同社疲労試験棟

## 官民事業 20年代実用化目標

国内大手メーカーなどが官民で進める「空飛ぶ車」の開発事業に金属材料の材料試験を手掛けるキグチテクニクス(安来市恵乃島町)が参画することが決まった。政府が2020年代の実用化を目指す夢の車。航空機事業に長年携わり国内外の重工業メーカーからの受注に対応してきた技術で、SFの世界だった空中移動を可能とする。

(森安哲史)



空飛ぶ車「SkyDriver」のイメージ図(カーテイベーター提供)

自動運転技術などを進化させた「空飛ぶ車」の開発に向け、政府は8月下旬、官民で法整備や研究開発を支援する協議会を立ち上げた。欧州航空機大手エアバスや米配車大手ウーバー・テクノロジーズなど、海外の大手企業やベンチャーが先行する分野で激しい開発競争に臨む。

想定されるのは電動で垂直離陸を行う自動運転飛行の車で、キグチテクニクスが開発に携わるのは、トヨ

タ自動車などから支援を受ける技術者団体「Car tivatior」が手掛ける「SkyDrive」。全長3・6メートル、幅1・7メートル、高さ1・1メートルの2人乗りで飛行、陸上走行とも可能とし、飛行速度100キロ、走行速度60キロで設計。20年東京五輪・パラリンピックで聖火台に火をともしデモ飛行を目標としている。

空中移動は、災害時の支援活動やインフラ整備が進んでいない離島、中山間地域の交通の利便性を画期的に高めると期待され、大前提となる絶対的な安全性や信頼性を、キグチテクニクスは航空機のエンジン部品などの材料評価で培った世界水準の技術で支える。

素繊維強化プラスチック(CFRP)など新素材の耐久性評価も手掛ける。空飛ぶ車の開発事業には国立研究開発法人物質・材料研究機構(NIMS)や宇宙航空研究開発機構(JAXA)のエンジン開発プロジェクトなどに携わった宮本伸樹試験部長(41)を派遣。

同社の試験設備で、空飛ぶ車が採用する部品の強度や疲労特性を評価する役割などが予想される。宮本部長は「実現すれば世の中の暮らしが変わるような夢のあるプロジェクトに関ることができ、非常にやりがいを感じる」と喜ぶ。

トヨタ自動車、パナソニック、NECなど国内有数の約40社が技術や資金を提供する中、山陰両県から唯一の参画。木口重樹社長(75)は「従来の航空宇宙分野のみならず次世代の交通手段に貢献するビジネスに果敢にチャレンジしていきたい」と意気込む。